

平成27年度 第1回学校評議員会（報告）

岩手県立宮古工業高等学校

- 1 開催日時 平成27年6月24日（水）15：30～17：00
- 2 開催場所 本校校長室
- 3 出席者（敬称略）
 - (1) 評議員 菊池 誠也（津軽石中校長）
本田 泰三（特別養護老人ホーム慈苑：前PTA会長）
前川 圭（伊藤住宅設備：同窓会副会長）
沼理 正晴（エフビー ：同窓生）
伊藤 貞二（東北ヒロセ ：同窓生）
 - (2) 学校側 校長、副校長、事務長、総務部長、教務部長 生徒指導部長（代理：副部長、進路指導部長（代理：部員）、機械科長、電気電子科長、建築設備科長
- 4 内容
 - (1) 校長挨拶
 - (2) 報告
 - ア 教育目標と学校経営計画について（校長）
 - イ 学校状況の説明（各部、各科）
 - (3) 意見交換
 - ア 地域に期待される高校について
 - イ 意見・要望等
- 5 学校評議員からの質疑・意見等
菊池 誠也（津軽石中校長）
 - 習熟度別学習について — 生徒の希望でクラスを決めているのか。どのようにして分けているのか知りたい。また、保護者に知らせているか。
 - 数学の学び直しについて — 生徒数が減少していく中で、競争心がなくなり、学力のレベルを維持するのが難しくなっている。中学校としても色々と手を加えているが、受験倍率を見て安心し、努力や取り組む姿勢へと繋がらず、結果として学び直しが必要になる。
 - かつての男子校のイメージを持って来校したが、階段、腰板の汚れや教室の机も傷も無く、挨拶や生徒指導の良さを醸し出している。

本田 泰三（特別養護老人ホーム慈苑：前PTA会長）

- 授業見学 — 先生が遅れている生徒へ話しかけて上手くノートをとらせながら授業をしていた。
- 工業高校の魅力について — 全国に出て活躍しているが地域にどれだけ理解されているか。スポーツ、学力とも通学距離が市内より離れているだけに地域に知らせていく取り組みが必要である。
- 各学科の入学者の人数が年によって違いがある。何かあるのか。今年度は電気電子科が少なかった。

前川 圭（伊藤住宅設備：同窓会副会長）

- 資格取得が就職に役立っているか。我が社の若手社員たちにも高校時代の意識をきらさない努力が必要だと感じている。
- 実習見学 — 基本も大切だが、基本を超えた興味を抱くような内容も必要。新しい事を学んでほしい。
- 管内の就職もいいが、建築設備系は大きな仕事の経験が必要なので、県外に出て経験を積んだほうがいい。

沼理 正晴（エフビー：同窓生）

- 入学定員が減少して心配している。会社も募集をかけても応募が少ない。インターンシップ等受け入れてやっといこうと努力しているが生徒はインターンシップに来るが意識が薄いように思う。先生方も学んでほしい。
- ヤスリの重要性を授業で指導していた。会社でも1週間、手にマメを作りながら研修させているが、それだけになっているようだ。情報が煩雑化し、その中で自分に必要な物を選択する必要がある。基本は夢やビジョンを描く、感動することが大切で部活動をしっかりやってほしい。ものをつくらない限り地域の成長はない。

伊藤 貞二（東北ヒロセ：同窓生）

- 勉強・スポーツ以外に地域貢献を教えており継続してほしい。海外へ企業が進出し、ものづくりの空洞化が起きていたが日本に戻りつつある。宮古は金型・コネクタ産業があり、そのために人財が必要。何でもできる人、これからは建築を学んで電気ができる人。機械だけの専門にこだわらない、学科をまたぐ必要がある。研究してほしい。これからは英語が重要。

【学校側から】

- ・習熟度別クラス編成は数学が数年前から実施、2班に編制。英語が今年度から実施して3班編制で実施している。学検や基礎力確認調査、試験後の成績でクラス分けしている。家庭への連絡はしていない。
- ・今年度の各学科の入学者数の変動理由については把握していない。部活や友人関係が左右しているのではないか。
- ・学んだ資格を活かして例年卒業生は8割近くが職に就いている。
- ・教員も研修が必要、生徒も資格ですごく頑張っている。新しい技術も今後取り入れていきたい。